



じぶん未来BOOK

# DVDで「今」の大切さを実感した後 将来を考える流れに生徒が好反応

— 北海道・市立 札幌藻岩高校 —



進路指導主事  
みつせき  
三関直樹先生

## School Data

生徒数/955人(男子516人・女子439人)  
普通科24学級  
進路状況(2010年度)/大学・短大進学53.6%、専各進学14.7%、就職6.2%、その他25.5%  
北海道札幌市南区川沿3条2丁目1-1  
TEL 011-571-7811  
URL <http://www.moiwa-h.sapporo-c.ed.jp/>

文理選択後の年度末に実施し  
改めて将来を考える契機に

札幌市に8つある市立高校のひとつ、札幌藻岩高校は文武両道を旨とし、環境教育にも力を入れている。

1学年の5月には市立高校独自の進路行事、「進路探求セミナー」で代表者が発表する将来の夢を聞き、6月には文理選択に向けた進路学習が始まる。2学年になると3学年の「文系I型」、「文系II型」、「理系」コース選択に向け、8月には職場体験学習、9月には「学問研究ガイダンス(大学の先生による出前講座)」を1・2学年合同で実施。3学年では「進路別集会」をはじめ、多数の進路行事が行われる。

『じぶん未来BOOK』を使った授業は、昨年度の1年生全員を対象に2月に行った。使用したリクルート作成の『じぶん未来BOOK』のワークシートは3ステップからなる。ステップ1では診断テストに挑戦し、自分の仕事の好みを含む職種をチェック。ステップ2では、1でチェックした中から、特に興味をもった仕事人を選び、仕事

## 進路学習の様子



DVD放映や三関先生の講話中、私語は一切なく、生徒全員が集中していた。「床に座って書く」という作業環境だったが、生徒はイキイキとした表情で取り組んだ。「教員が何度言っても伝わらないことが、DVDの力で強く生徒に印象付けられたようです」と三関先生。

## 『じぶん未来BOOK』DVD



仕事の醍醐味や苦労、「働くこと」の魅力を感じることで、エピソードやアドバイスをもとめた映像。  
※ご利用に関しては小社スタッフまでお問い合わせください。

## 授業の感想

～さまざまな発見や気づき～

「やりたいことをみつけ、それで生活できるか考えなければならぬと知った(→目標設定の必要性への気づき)」「今までやりたい仕事以外何も考えていなかったが、進路選択に失敗がないように、もっとよく考えようと思った(→多様な選択肢の検討)」「少しでも可能性を広げるためにもう少し勉強しようと思った(→学習意欲の向上)」「自分に合うものはなにか、もっと考えたい(→適性の検討)」「大学選別に失敗した人の体験談を聞いて、後悔しないようにしっかり調べようと思った(→進路先選択の重要性への気づき)」「思ったよりたくさんの職があると知った(→職業の多様性への気づき)」「夢をつかんだ人は何から努力をしている、そのうえ次の目標もある(→努力の必要性)」「仕事や進学は好きなのでいいけど、何となく進んでいく感じが不安(→進路先選択の重要性への気づき)」「夢をつかんだ人は何から努力をしている、そのうえ次の目標もある(→努力の必要性)」「仕事や進学は好きなのでいいけど、何となく進んでいく感じが不安(→進路先選択の重要性への気づき)」など

※授業終了後のアンケート結果より。  
カッコ内は編集部

内容や印象的な文章を書き出す。ステップ3では、仕事人の高校時代の欄から役立つと思うエピソードを抜き書きし、それらを参考に3年後や10年後にどんな自分になりたいかを考える。

「正直、50分の授業でこの内容をすべてやるのは難しいと感じました。そこでワークシートの前半は各自が事前に済ませ、当日はDVDを見て将来を考える大切さを実感した後、肝となる最後の『3年後、10年後の自分』を書くことにしました」と語る進路指導主事の三関直樹先生。

DVDが人気バンドの音楽で始まると、生徒は画面に吸い込まれるように集中した。続いてプロバスケットボール選手、国境なき医師団の医師、お菓子メーカーの営業マン、化粧品品の美容部員という面々が、キャリアや仕事のことを後悔まで含めて率直に語る姿に真剣に見入っていた。「高校時代の話もあり、自然に自分の立場に引き寄せて話が聞けたようです」と三関先生。

この学習の大きな目的は、「今の自分を自覚すること」。あいまにしてきた自分の内面に向き合い、言葉にできれば、次の

段階に進む準備ができると考えてのことだ。「私は全員分を読みましたが、目的は達成できたと思います」。

返却時の声かけで  
さらなる行動を促す

三関先生が「注目していた将来の自分の欄には、「仕事は楽しくやりたい」と書く生徒が多かった。「仕事に辛さや苦労はつきもの。それでも楽しくやるにはどうしたらいいか、という思いが芽生えたようです。この疑問を胸に、2学年のインターンシップで働く人の仕事を注意して見てほしい。それが『楽しく働く秘訣』を考えるヒントになれば、と期待しています」。

また、三関先生は、昨年担任したクラスでワークシートを返却するとき、一人ひとりに声をかけた。医療系を目指す生徒には「医療の現状や仕事内容をどれほどわかっているかな」など、生徒の興味を二歩深めることを意図したものだ。「1年間の締めくくり、次につながる良い授業ができて満足です」。



じぶん未来BOOK

# 文理選択の前提として不可欠な 職業選択に興味をもつきっかけに

— 広島・私立 <sup>えいしん</sup> 盈進高校 —



進路指導部・2学年担任  
松井優気先生(左)  
高田知佳先生(右)

## School Data

生徒数/661人(男子411人・女子250人)  
普通科20学級  
進路状況(2010年度)/大学・短大進学84.1%、専各進学8.6%、就職2.7%、その他4.5%  
広島県福山市千田町千田487-4  
TEL 084-955-2333  
URL <http://www.eishin.ed.jp>

一番はじめの進路学習として  
1学年の6月に実施

盈進高校では1学年で文理選択、2学年で国公立大・私立大の選択を行い、3年度の4月には志望校を決める。進路指導部では「職業を知ること」→「学部・学科選択」→「志望校選択」と段階を踏んで進路観を育成できる進路学習を計画。第1弾として1学年の6月中旬に『じぶん未来BOOK』を使ったLHRを行う。

「生徒は仕事の豊富さ、幅広さについて、驚くほど知りません。この本を読む一番の目的は、未知の世界に気づき、興味のある職種を1つでも増やすことです」と語る進路指導部の松井優気先生。  
先生の作ったワークシートでは、まず50職種から興味のある8職種を選び、さらに巻末にある106職種の職業インデックスから将来なりたいたいと思える3職種を書き出す。「理系志望だとロボットや自動車に目が向きがちですが、この本を読んで研究職や生物学系の仕事に注目する生徒

## 『じぶん未来BOOK』を使ったワークシートの記入例



気になる職業を選んだら、3年後、10年後の自分や、今の生活をどうしたいかについても書く。なかには悩む生徒もクラスに数人いた、という松井先生。「興味のあるものを1つでも選ぶように声をかけました。それが次の行動に移る手がかりになりますから」。

## 文理選択までの進路学習の流れ

### ● 付属中学校(内部進学者のみ)

インターンシップ、職業人インタビュー



### ● 高校1学年

#### ○ 1学期

『じぶん未来BOOK』を使った職業研究  
学部・学科研究  
複数の大学の職員を招いた合同説明会  
広島大学・岡山大学の学校見学

#### ○ 夏休み

大学教員による出前授業  
大学研究のレポート提出、休み明けに発表

#### ○ 2学期

1学期の経験をもとに、個別指導



### 12月末 文理選択最終決定

行事で忙しい2学期を避け、1学期と夏休みに集中して文理選択に必要な進路学習を行う。「やることが目白押しの生徒にとって『じぶん未来BOOK』はボリュームも適当で、楽しんで読めたようです」(松井先生)。

徒が増加。視野を広げるきっかけになりました」と語るのは進路指導部の高田知佳先生。「生徒は『仕事はしんどいもの』というマイナスイメージを抱きがち。でもこの本を読んで、働くことに魅力を感じた生徒が多かったと思います」と松井先生。  
一方で、特に魅かれるものがなく、選びあぐねて悩んだり、深く考えずにひとつのプラスイメージに飛びついたりする生徒もいた。「やはり仕事を決めるのは大変なことです。将来に向けた本物のやる気を引き出すには、身近な大人である教員が、『仕事は楽しい』と態度で示すことが大事なかな、と。私たちの姿を通して働く喜びを生徒に感じてもらいたいと、改めて思いました」と高田先生。

## 全員が後悔のない選択に至るまで粘り強く働きかける

この授業のすぐ後に、学部・学科で学べる内容を知り、気になる学問を選ぶワークを行う。さらに大学の広報担当者を招

いた合同説明会、広島大学と岡山大学へのオープンキャンパスツアー、大学の教員による出前授業が立て続けに実施され、これをもとに12月末までに文理選択を実施する。  
それでも「決められない」「決まらない」という生徒は出てくる。その場合、定期試験ごとに設けている面談期間を効果的に活用している。まず、生徒の思いを引き出し、整理させる。そして文系・理系を選択したときの方向性の違いをていねいに伝え、十分に話し、担任が生徒と一緒に将来を考える方針をとっている。

何がやりたいか、まったくわからない生徒には、学問への興味をかきたてるイベントが多い、私立大学のオープンキャンパスに行くよう勧めることもある。「少しでも心が動くものがあれば、それを手がかりにアドバイスします。また卒業生の進路決定の事例は生徒の反応がとてもいいので、『こういう先輩がいたよ』などと具体的に数多く伝えるようにしています」(高田先生)。